

## 今までの経営効率化の取り組み

### ○管渠費（下水道施設の維持管理及び普及推進のための費用）○

- ・水洗化促進のための個別訪問による接続率の向上で 下水道使用料収入の増加。
- ・法令で作成・閲覧が定められている下水道台帳のデジタル化、及び Web 上で一般公開を行い、事務の効率化。（資料4-A）

### ○ポンプ場費（下水道施設のうちポンプ場の維持管理費用）○

- ・高効率ポンプの採用
- ・中央監視装置のデジタル化
- ・各ポンプ場と接続している専用通信回線の無線化
- ・大量に使用する活性炭を腐植質脱臭剤ふしょくじつに変更しコスト削減

### ○総係費（下水道事業の経理部門の費用）○

- ・桶川北本水道企業団・北本市・桶川市の3者で下水道使用料徴収の共同処理を行い、事務処理の効率化によるコスト及び人員の削減
- ・地方公営企業会計を適用し、経営の見える化

### ○管路建設改良費（下水道施設の新設・更新のための費用）○

- ・不明水対策のため止水性の高い管路材料への変更
- ・各種リサイクル材料の採用による再資源化とコスト削減

## ◆取り組みの効果◆

人件費削減：下水道課職員数はピーク時 20 名から現在 10 名

経費回収率：平成元年の 40.9%から現在約 70%前後で推移

### 【今後の経営努力について】

下水道事業の費用は、「職員人件費」、「下水道事業を維持するための経費」、「建設費及びそれに伴う借金の返済」の主に3つに大別され、その費用のほとんどは固定費で、現在、削減することが難しくなっています。

国はこれから、下水道事業の『広域化・共同化』を推進していくことを明確にしています。将来的には” 桶川北本上下水道企業団” もしくは、” 荒川左岸北部流域下水道企業団” など、大きな組織として再編され、そのスケールメリットを生かした経営の効率化を行っていくことになる可能性があります。

そうした将来も想定しながら、下水道事業経営における先進的な事例の収集に努め、今できる経営改善策を常に見つけ、また、実施しながら下水道事業を運営してまいります。